

王城寺原演習場における米軍実弾射撃移転訓練の見学会を開催

令和8年2月3日（火）、王城寺原演習場において、米軍実弾射撃移転訓練の見学会を実施し、宮城県及び演習場が所在する大和町、大衡村、色麻町の関係者約30名と報道関係者に参加いただきました。

見学会では、冒頭、アダム・J・スピッツナー中尉（第12海兵連隊第3大隊所属）より「この訓練は、米国が日本の安全を守るという責務を遂行して、インド太平洋地域の平和と安全の礎としての日米同盟を維持するために不可欠なものである。この訓練の実施を受け入れていただいている地元の皆さまに、感謝している。」等の発言がありました。

参加者は、海兵隊員による155ミリりゅう弾砲、ロケットランチャーなどの性能や射撃指揮所の役割等の説明に耳を傾けていました。



アダム・J・スピッツナー中尉の説明



海兵隊員から説明を受ける参加者



155ミリりゅう弾砲



ロケットランチャー